



今日を生きるということ。



ガバナー通信

NO
10

国際ロータリー第2620地区
2021-2022年度ガバナー

小林 聡一郎



ガバナー挨拶

世界の子どもたち、「括弧に言っても生活環境はまちまちです。毎日の食事も心配なく教育も受けられ、温かいベッドがあり人権も守られ、両親の愛情のもとに生活している子どももいれば、まったくそうではなく悲惨な状況に置かれて、子どもの力ではどうにも出来ないまま、かろうじて今日の命をつないでいる子ども達もいます。

そして今現実起きていて、どのよう言い訳しても正当化できない大国の、目を疑いたくなる国土蹂躪(じゅうりつ)で命を落とす人々、また女性や子どもへの苦渋難渋の国外脱出の映像を目の当たりにして、究極世界平和を目指すロータリーとしては虚脱感にも似た感覚に陥りそうにもなりません。戦車やミサイルが何の解決になるのかと憤り悲しんでも、過酷な現実には弱者に容赦はありません。何とかしなければと思っても問題の大きさに手足を縛られたような感覚に襲われて、「だからこそロータリーのような組織が必要なんだ」と自分を奮い立たせるのですが…。世界中の人々が平和に暮らすことは理想ですが、そうなのはいいか、これは今の現実ウクライナで起きていることが証明しています。国と国、民族と民族、個人と個人に至るまで闘争はあり、それを引き起こしている原因を解決していく努力を重ねることはあるもの、平穏な世界や理想的な生活は実現できていないのが世界の姿です。

さて、4月は「母子の健康月間」です。母子の健康への取り組みは、単に母親の生存と健康、子の健全発育だけに留まらず、将来にわたって循環的に影響を及ぼす問題であるということだと思えます。産後の母親の生存は、生まれてきた子どもの保育や発育にも、また当然父子家庭になつた場合の家庭環境にも関わりますし、生活の質の面においても大切な要素ですので、まずは母子ともに健康であることが安定した生活の基盤になるという認識からだと思えます。世界では5歳未満で530万人(2017年)が亡くなり、その約半数が生後1カ月以内に亡くなっています。また妊娠中あるいは出産時に合併症により29万人以上(2018年)の母親が命を落としています。(ユニセフ・WHO発表)

家庭や地域社会そして経済の健全性などは、女性の健康と密接に関連します。母子ともに健康であることは重要なことです。私たちの周りでは、子どもを生むことが母親の生命に関わるという認識も薄れるほど安全に出産することができますが、世界にはまだまだそうではない母子がいます。

出産劣悪環境や大国侵攻などで命の危険にさらされている母子の視線の先に、ロータリーマーカーは見えているでしょうか。苦境におかれている人々を看過できない、ロータリアンお一人お一人に問い掛けているのだと思えます。

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

[国際ロータリー第2620地区 ガバナー月信 2022.4 / 母子の健康月間号]

地区運営ビジョン

ロータリーの中核的価値観をロータリアンの行動に変換する。



地区戦略ビジョン

元気で魅力があり地域で存在感のあるクラブを目指してロータリーの価値を高めよう。

RID2620 2021-22 District Conference



特別来賓
国際ロータリー理事
辰野克彦様(東京西RC)
RI第2750地区 ガバナー(2010-2011年度)
TRF東日本大震災復興基金日本委員会委員
RI研修リーダー(2012年,2013年)
ロータリー平和センターホストエリアコーディネーター
ハンブルク国際大会推進コーディネーター
RI理事(2020-2022年度)



地区指導者育成セミナー講師
国際ロータリー第2地域
ロータリーコーディネーター
水野 功様(東京飛火野RC)
RI第2750地区 ガバナー(2015-2016年度)
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会副理事長
公益財団法人米山梅吉記念館理事
日本のロータリー100周年実行委員会事務局長
RI研修リーダー(2020年,2021年)
現在:ロータリーコーディネーター第2地域
ロータリー・センター・ホスト・エリア・コーディネーター



講師:
丸島和洋氏



1977年、大阪府生まれ。
慶應義塾大学文学部史学科卒業。慶應義塾大学博士(史学)取得。国文学研究資料館研究部特任助教などを経て、現在京都市大学共通教育部准教授。
大河ドラマ「真田丸」時代考証担当。
著書に『武田勝頼: 試される戦国大名の「器量」(中世から近世へ)』『戦国大名武田氏の家臣団 信玄・勝頼を支えた家臣たち』等。

温故展新

故ふるきを温たずねて新あたらしきを展ひらく

国際ロータリー第2620地区 2021-22年度

地区大会

5月21日(土)・22日(日)

午後3時～
地区委員長・副委員長、クラブ会長・幹事会

午前10時20分～地区指導者育成セミナー
午後1時～本会議

21日(土) 甲府記念日ホテル
22日(日) YCC県民文化ホール
(山梨県立県民文化ホール)

地区大会登録料 **14,000円**
(新会員は10,000円)



ガバナー
小林聰一郎

温故展新
コロナ禍に加えてウクライナへの侵襲でロータリーの究極目的「平和」が遠のいています。私達は今を直視し、過去に学び、新しい時代を切り展いていかなければなりません。新しい時代を共に歩んでまいりましょう。

■プログラム案

21日(土) 大会1日目
14:00 地区大会四委員会
14:00 受付開始
15:00 開会点鐘
17:40 閉会点鐘
18:10 辰野克彦RI理事歓迎晩餐会
20:00 閉宴

22日(日) 大会2日目
10:20～11:30 地区指導者育成セミナー
13:00 地区大会本会議開会点鐘
14:35 記念講演
「戦国のMOVER武田信玄」
16:20 閉会点鐘
記念品をお持ち帰りいただけます。

アクセス
甲府記念日ホテル 電車で/JR中央線または身延線 甲府駅からバスまたはタクシーで約10分。
バスは甲府駅南口4番乗り場から乗車「湯村温泉入り口」下車。
お車で/中央道、中部横断道路でお越しの場合甲府昭和IC、または双葉SA(ETCのみ)から。
YCC 電車で/JR中央線または身延線 甲府駅からバスまたはタクシーで約5分、徒歩で約20分。
県民文化ホール お車で/中央道、中部横断道路でお越しの場合甲府昭和ICから。

コロナウィルスの蔓延状況によりプログラムを変更させていただく場合があります。
ご理解をお願いいたします。



ホストクラブ: 甲府北RC
コ・ホストクラブ:
甲府RC・甲府南RC・甲府西RC・甲府東RC・
甲府シティRC・甲府城北RC・甲斐RC・山梨RC

国際ロータリー第2620地区ガバナー事務所
400-0072 甲府市大和町1-53-2F
TEL & FAX 055-270-1004
E-Mail: 21-22g.kobayashi@ri2620.gr.jp



2月16日にゴルフを楽しまれた甲府南RCの皆様＝富嶽カントリークラブ

RI会長杯 ワールドゴルフ大会報告



2月23日にZoomで開かれた表彰式でスピーチをするシェカール・メータRI会長

RI会長杯ロータリーワールドゴルフ大会は2月14日～20日、世界中のロータリアンへ「ポリオ寄付」を呼び掛けて開催されました。インド本部からの報告によりますと、28カ国から1036名にご参加いただき、ポリオ寄付総額は\$279,825となりました。日本の窓口を任命されましたが、日本はとても寒い真冬の2月に開催ということもあり当初は登録者数が少なく、毎週のようにZoomで開かれる実行委員会に出る度に冷や汗をかきましたが、小林聡一郎ガバナーのご協力をいただき、最終的には日本から29RC、205名ものロータリアンの皆様にご登録いただきました。主催国インドのロータリアンの皆様も、日本からの登録者のラストスパートでの急増に大変驚かれました。当地区からは浜松南RC、甲府南RC、甲府北RCにご登録くださいました。雪のためにゴルフ予定がままならなくなられたクラブもありました。また、期間中にゴルフはできないがこの大会のためにポリオ寄付で協力すると申し出てくださったロータリアンの方々もいらっしゃり、多くのロータリアンの皆様にご参加、ご協力をいただきました事に深く感謝申し上げます。

なお、2月23日にZoomで開かれたオンライン表彰式にはシェカール・メータRI会長、バリー・ラシン元RI会長もご出席され、この大会の成功を称えられました。甲府南RCの松村秀治会員はシティー・チャンピオンを受賞されました。大会にご参加いただいた皆様には、RI会長のサインが入った参加証(PDF)が届く予定です。また、受賞者の皆様には受賞賞品が用意されるのですが、参加証や賞品が届くにはまだ時間がかかるようですので、ご承知おきください。この件につきましては、インドの実行委員会から通知がありましたら、対象の皆様にご案内をさせていただきます。

最後に、改めて御礼申し上げ、RI会長杯ワールドゴルフ大会のご報告とさせていただきます。



浜松南ロータリークラブ
副会長
アーネスト・ララカ・シルバー

DO MORE ☆ RID2620 TOPICS

地区チーム研修セミナー開催報告



2月23日(水・祝)、地区チーム研修セミナーが昨年同様Zoomで開催され、地区役員、各委員会メンバーなど約120名が参加しました。

小林ガバナーは「コロナ禍の試練を乗り越え、私たちの地区はどのように『持続可能な発展』に向けて進み、世界と繋がることができるのか。この答えは皆さんが握っています」と挨拶されました。

浅原ガバナーエレクトより、ジェニファー・ジョーンズ次期RI会長

は「イマジン・ロータリー」をテーマとし、世界にもたらされる変化を想像して大きな夢を描き、その実現のためにロータリーの力の繋がりを活かすように呼び掛けていると解説されました。地区運営方針は「絆を深めて、ロータリー活動を再開しよう」とし、各クラブの活動を復活させ奉仕活動に注力し、懇親会などの懇親活動を通して絆を深めましょう、また、ロータリーブランドの強化のために公共イメージの向上を図っていこうと呼び掛けました。

続いて、各委員会別会議が行われ、事業計画や予算について討議しました。その後、各委員長より会議内容の発表が行われ、最後に浅原ガバナーエレクトの総評で約4時間の会議が無事終了いたしました。

(次期地区副幹事 松浦正秋／藤枝南RC)



RI規定審議会プレ勉強会

RI規定審議会プレ勉強会を3月8日(火)、Zoomで開催いたしました。ガバナー、パストガバナーの皆様、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、ガバナーノミニ・デジグネートをはじめ、現次ガバナー補佐の皆様、クラブ会長を中心とした約100名の皆様にご参加いただきました。

午後4時の開会し、小林ガバナーの挨拶、前RI規定審議会代表議員の高野孫左エ門パストガバナーの挨拶の後、中村皇積ガバナーノミニにRI規定審議会についてわかり





やすくご説明いただきました。次に、RI規定審議会代表議員の志田洪顕パストガバナーが規定審議会の概要を

ご説明されました。その後は小林ガバナー、高野パストガバナー、志田パストガバナーによる制定案審議に移りました。最後に意見交換会となり、白熱したオンラインセミナーとなりました。この勉強会を開催するにあたりご協力いただきました高野・志田両パストガバナー、中村ノミニ、そしてご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

(地区幹事 中尾 均／甲府北RC)

第3回RP委員会青少年交換小委員会 委員会研修報告

第3回ロータリープログラム委員会青少年交換小委員会 委員会研修を3月5日(土)、静岡市内の地区事務所で開催し、小林聡一郎ガバナー、浅原諒蔵ガバナーエレクト、近藤徹地区危機管理委員長、小澤邦比呂ロータリープログラム委員長、青少年交換小委員会委員6名の計10名が出席いたしました。以下の3項目について議論しました。

1. 「2022-2023年度 ロータリープログラム委員会 青少年交換小委員会 事業計画」の内容について最終確認しました。
2. 「2023-2024年度 長期派遣候補学生」の募集を行なうかどうかについて出席者全員に意見を求め、新型コロナウイルスの影響による渡航制限や不安定な世界情勢に鑑み「子供の安全が第一」であり「リスク回避対策」の観点から、小林聡一郎ガバナー・浅原諒蔵ガバナーエレクトに最終判断をいただき、「2023-2024年度 長期派遣候補学生 募集中止」を決定しました。
3. 延期されている「青少年交換学友会総会開催」の段取りと「青少年交換学友会 規約改正」について意見交換しました。

(青少年交換小委員会委員長 雨宮哲也／甲府RC)



2023-2024年度長期派遣候補学生募集中止のお知らせ

3月24日に各RCへガバナー事務所を通してご案内させていただいた通り、2023-2024年度長期派遣候補学生募集を中止いたします。新型コロナウイルスの蔓延により、青少年交換事業の停滞を余儀なくされております。外務省「国・地域別海外安全情報」によりますと、世界のほとんどの国がレベル3(渡航中止勧告)にあり、新型コロナウイルス感染症に関する新たな水際対策措置が順次取られている状況で、渡航にあたっての指針「感染症危険レベル1(十分注意してください)」に未だ至っていないことに加え、最近の世界情勢が不安定化したことも相まって、青少年交換事業遂行にあたっての基本となる「子どもの安全が第一」が保証できない状況にあります。「2023-2024年度長期派遣候補学生募集可否」について、青少年交換小委員会で慎重に議論を重ね、小林聡一郎ガバナー、浅原諒蔵ガバナーエレクトの最終判断をもち「2023-2024年度長期派遣候補学生募集の中止」を決定いたしました。正常な青少年交換事業の継続を心から願いつつ、その再開におきましては、各ロータリークラブの変わらぬご支援・ご協力を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

女性会員のための未来Designセミナー開催報告



女性会員のための未来Designセミナーを3月17日(木)、甲府市のフレンチレストラン「リアル・ドール」で開き、女性会員23名と小林聡一郎ガバナー、中尾均地区幹事、会員増強維持・拡大委員会のメンバー5名、合計30名の皆様にご出席いただきました。

冒頭で小林ガバナーは「女性会員が横のつながりを自然に持てる機会としたい。皆さんがご自分の人生と未来を考える時に『ロータリー的思考』を組み込んで、より豊かな人生にしていきたい」と挨拶されました。続いて、私から引き続きコロナ禍にある今年度の会員増強状況の報告を含めた挨拶をさせていただいた後、ランチブレイクに入り、フランス料理をお楽しみいただきながら、会員同士の交流を深めていただきました。

その後は、ジャーナリストの浜田敬子さんによる「1歩踏み出せば自分も社会も変わる!～なぜ女性リーダーが必要なのか～」と題した講演に移りました。浜田さんは自身の経験談や女性が社会で活躍していくということ、SDGsやDEIについて話され、参加者は示唆に富んだお話しに引き込まれました。

講演終了後は休憩を挟んでテーブルごとにグループセッションを行い、ロータリーに入会した経緯や女性会員が入会しやすいクラブに必要な要素などについて意見交換を行いました。活発に発言し合いながら、地域の異なるクラブについて知る良い機会になったと思います。また、各テーブルの代表者にグループセッションのまとめの報告を発表していただきました。

春の穏やかな陽気に恵まれ、大変有意義な時間を過ごすことができました。お帰りの際には、すっかり打ち解けられた女性会員の皆様の楽しそうな笑顔を拝見し、今回のセミナーを開くことができ本当に良かったと安堵いたしました。ご参加いただいた皆様に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(会員増強維持・拡大委員会委員長 三枝照二／山梨RC)

米山記念奨学生期間終了式

2021学年度の米山記念奨学生期間終了式を3月19日(土)、静岡市のグランディエールブuketオーカイで、3月末で終了する奨学生(15名)、同カウンセラー、地区役員、総勢41名にご出席いただき開催いたしました。コロナの影響で開催自体を危ぶまれましたが、今できる最大限の感染防止対策を行い、小林聡一郎ガバナーの開会点鐘とご挨拶で式典が始まりました。式典では、委員会アドバイザーの安間みち子PDG、沼津北RC大塩秀樹カウンセラーから終了者に向けての祝辞と贈る言葉をいただき、その後、奨学生を代表して甲府南RCレー・チュオン・ロクさん、浜松南RCファミ・ゴック・アンさん、沼津北RCオウ・ケンさんから米山記念奨学生業、世話クラブカウンセラーに対して感謝の気持ちをスピーチしていただきました。また、今後は学友としてご活躍いただけるよう、青山チャリット学友会長から学友会へのお誘いと祝辞をいただきました。

パンデミックで思うように物事が進まない中、奨学生たちは親元を離れ、異国の地で一生懸命学び生活しました。米山記

念奨学事業に出会い、大勢のロータリアンと接して成長した彼らの輝かしい姿を見ながら、米山梅吉翁の偉業を称え、その精神を受け継ごうと始まったこの奨学事業を誇りに思うと共に、国籍も人種も関係無く、ただただ真つすぐ国際親善と世界平和求め、今なお日本のロータリアンの善意で脈々と受け継がれている事に改めて感謝を申し上げます。そして、期間終了した奨学生たちが次の世代にこの想いを繋げ、世界中で活躍してもらいたいと思います。末筆になりますが、お世話いただきました世話クラブの皆様、カウンセラーの皆様にご敬意を表し、開催報告とさせていただきます。ありがとうございました。

(米山記念奨学委員会委員長 柳場文彦／山梨RC)



米山記念奨学生の皆様へ贈る言葉

米山記念奨学生カウンセラー 大塩秀樹(沼津北RC)

今日こうして米山記念奨学生の皆さんが、無事奨学期間の終了を迎えられますことを心よりお喜び申し上げます。私は米山奨学生、王騫君のカウンセラーをつとめさせていただきました。諸先輩のカウンセラーの皆様がいらっしゃるのに大変僣越ではございますが、柳場文彦委員長よりご指名をいただきましたので、奨学生の皆さんにご挨拶申し上げます。

奨学生の皆さんはここで、1年或いは2年の奨学期間を終了されますが、何れもスタートの時から既に新型コロナウイルスの感染が拡大している中での奨学期間の始まりとなりました。今日に至る間に、何度も感染の拡大や縮小を繰り返し、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出され、行動の制限を余儀なくされてきました。この僅か2年余りの間に私たちの生活様式をはじめ、あらゆる常識が一変してしまいました。人数の集まる会合は中止や規模の縮小がされ、大学の授業や様々な会議もリモートで行なわれることが当たり前の世の中となりました。リモートによる会議などは合理的な仕組みではありますが、人と人が触れ合うコミュニケーションの機会が得られにくくなってしまいます。特に大学生にとって、本来、学生生活で一番の財産ともいえるべき、友人と過ごす時間や新たな友人を作る機会が極端に限られてしまっていることは大変残念に思います。このコロナ禍での生活は、地元で暮らしている私たちですら大きな不安やストレスを感じているのですから、遠く親元を離れ、慣れない日本での生活をされている留学生の皆さんにとって、大変辛い状況であったことは察するに余りあります。

そうした中であつても米山奨学生の皆さんは誇りを持って、前向きに過ぎてこられた結果、今日を迎えられていることと思います。皆様のこれまでのご努力に対し、あらためて敬意を表したいと思います。

私がカウンセラーを務めさせていただいた王君には、出来る限り寄り添い、サポートするように努めてまいりましたが、コロナ禍の中、私の理想とする対応が出来ず、忸怩たる思いであります。おそらく何れのロータリークラブにおかれましても、この2年の間、大変苦しい思いをされて来られたのではないかと思います。我がクラブにおきましても、例会が長期にわたって休会となることが何度もあり、更には、奉仕活動やクラブ会員とのコミュニケーションを拡げる機会である親睦のイベントも多くが中止となってしまいました。その結果、王君とクラブ会員との交流の機会もごく限られたものとなってしまいました。そうした少ない例会の開催機会ではありましたが、例会に参加してくれる王君には、多くのメンバーから常に声が掛けられ、王君を気遣ってくれていることが伺えました。それに応えるように、王君のスピーチも月を重ねるごとに磨きが掛けられ、今年度のクラブ会長からは「自分の会長挨拶よりも王君のスピーチの方が出来が良い」と言われしめるほどでした。私達はこうして成長してゆく王君の姿を微笑ましく見てまいりました。

奨学生の皆さんにとって、この奨学期間は決して楽な道のりではなかったことでしょう。時には辛いことや寂しいこと、悲しいこともあったかもしれませんが、皆さんは、ここに至るまでの間に様々なハードルを乗り越えられ、今日を迎えられているのだと思います。この経験は必ず皆さんの将来につながるものとなるでしょう。是非、誇りをもってこれからの生活を歩んでいただきたいと思います。

これで皆さんの奨学金の受給は終わりますが、皆さんのカウンセラー、所属クラブのメンバー、そして全国のロータリークラブのメンバーはこれからもずっと皆さんの応援団です。是非ご卒業後もクラブの例会や親睦行事に気軽に遊びに来て近況を聞かせてください。

皆さんのこれからの人生が幸多く、輝くものとなることを心よりご祈念を申し上げ、私の贈る言葉とさせていただきます。

お知らせ

◆ウクライナ災害救援基金について

3月4日付で各RCへウクライナ災害救援基金についてのお知らせを送らせていただきました。ロータリー財団は深刻化するウクライナでの人道的危機への対応として、世界中のロータリー会員が寄付することのできる正式な窓口として災害救援基金を指定。同基金への寄付を、影響を受けている地区への災害救援補助金を通じて支援することを決定しました。難民に対する水、食料、医薬品、シェルター、衣類の供給に使用されます。地区での受付締め切りは4月21日(木)です。なお、3月10日付で各RCへお知らせをお送りさせていただいた通り、ウクライナ災害支援補助金としてロータリー財団の地区財団活動資金(DDF)4万ドルを寄贈いたしました。このDDFは当地区ロータリアン一人一人の年次基金と恒久基金によって支えられているものです。このような緊急支援が必要な時に当地区が迅速に行動できることに改めて皆様へ感謝すると共に、皆様の奉仕・支援の真心がウクライナの難民の方々に少しでも助けになればと切に願います。

◆熱海豪雨災害支援金追加報告

ガバナー月信9月号にて熱海豪雨災害支援金6,100万円を熱海市に贈呈し、支援金は被災された世帯の皆様が生活に必要な物資を購入する支援となること、10月号にて追加で義援金9,279,238円を熱海市へ贈呈し被災者へ分配される旨を報告させていただきました。熱海市からの報告によりますと、地区内クラブの皆様からお預かりした支援金は、国や県、市の支援が行き届かない部分への支援を希望いたしましたので、被災者の方々が必要としている家具・生活必需品を1世帯40万円まで申し込むことができるように設定され、被災者にとって利便性が高い支援となりました。被災者の皆様からも「本当にありがたい支援」「生活に必要なものが幅広く選ぶことができた」「支給品では不便だったものを得ることができた」「自分の生活スタイルにあったものが選べた」と感謝の意が伝えられていることです。皆様のご協力を深く感謝申し上げます。

◆『ロータリーの友地区代表』の役割と活動

今回はロータリーの友地区代表委員(以下地区代表委員)とはどのようなお役目なのか、そしてどのような活動をしているのか、をご紹介します。

そもそも地区代表委員はガバナーの代理人としてガバナーより

任命されます(ロータリー章典51.020.4.ロータリー地域雑誌の認可のための指針 a) 資格要件の2.より)。地区内の会員の方々に機関雑誌としての『ロータリーの友』(以下『友』)を読んで貰えるような啓発活動を行う事、地区内のロータリー活動の情報をガバナーと共に収集し、『友』編集部へお知らせする事、そして編集部の取材に協力することもございます。

何と云っても一番重要な任務は、毎月の『友』を熟読し、その内容が機関雑誌として良いか悪いかの意見や感想をレポート提出する事です。自分が読んで面白かった、感動したといった感想を述べるのではない事が少し難しい所かもしれません。そして全員のレポートは毎月纏められ、全ての地区代表委員が読み合うことができ、記事の評価の違いなどを通じて、理解の幅を広げることに役立っています。このレポートが、より良い『友』作りに少しでもお力になれば、と考えながら毎月『友』と真摯に向かい合っています。

オリエンテーションや合同会議への出席義務もありますが、今年度は一堂に会する事は一度も無く、全てZoomでの開催となりました。また、地区内のクラブから要請があれば、『友』啓発のために卓話に伺う事も有るようですが、今年度はコロナ禍という事もあり、皆様ご遠慮なさったようですね。

残りわずかな小林年度ですが、地区代表委員としての責務をしっかりと果たしているのか自分自身に問いつつ、残りの任務を全うする所存です。

知仙の 「友」の輪

ロータリーの友
地区代表委員
吉原知仙
(甲府南RC)



◆ MyROTARY登録状況 ◆ 2022年3月17日現在

100%登録RC
90%以上登録RC
80%以上登録RC

6RC
10RC
8RC



2021~2022年度
地区目標達成!

70%以上登録RC
60%以上登録RC
50%以上登録RC

5RC
2RC
10RC



MyROTARY登録80%を目指し、引き続き登録推進にご協力をお願いいたします。